

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 9月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104559		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム 楽々苑		
所在地	広島市安佐北区安佐町飯室1563番地の2 (電話)		
自己評価作成日	平成23年9月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=3470104559&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=3470104559&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年9月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当苑の運営理念である「自然・安心・快適」を職員一同が念頭においてサービスを提供し、統一的なケアの実施が出来ている。四方を緑の山々に囲まれ自然豊かな場所に立地しており、近隣には学校・スーパー・公共施設等ある。緑豊かな環境のもと18名の利用者が地域の方々、関係事業所との連携のなか身体的・精神的に急変なく日々の生活を安心して送ることが出来ている。又、安心を支えるためにも職員の介護レベルの向上を目指し定期的な施設内研修を開催しており、認知症介護実践者研修は5名、専門研修は1名の職員が修了し、家庭的な雰囲気の中で認知症の進行を防ぎ落ち付いた生活が維持出来るよう支援している。同一建物内に小規模多機能型施設、隣接地には高齢者専用賃貸住宅があり日常的に交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

四季の織りなす自然豊かな環境に、機能性、やすらぎに力を含め構築された施設です。利用者の心身機能の維持、ストレス発散、季節を五感で感じる機会にと居室前、一面をウッドデッキにされ一角に温泉利用の足湯を設置。利用者、職員、地域住民との集いや行事の場として活用されている。職員は運営理念に基づく個人目標を毎月設定、自己評価を繰り返し、常にサービスの質向上に努めている。法人関連グループ五社「遊感美想グループ」は毎月会議を持ち、運営やケアサービス等の意見交換、グループの運営推進会議に出席する等、連携強化を図っている。医療面は複数の協力医療機関、訪問看護と連携し、利用者の通常の健康管理から急変時の体制も整えられている。同一建物内の小規模多機能型施設や隣接の高齢者専用賃貸住宅と合同で消防訓練、行事を行う等日常的に交流されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼時、理念の唱和を行い全職員間で共有し、理念に添ったサービスを提供している。理念を掘り下げ個人目標を設定し、一か月ごとに目標の達成状況を自ら評価している。	運営理念に基づき毎月、全職員が個人目標を設定、自己評価に取り組み10か月余を経過、定着し、職員自らが掲げた目標を繰り返し実践される中で、利用者の現状に即した介護が行われている。また、個人の目標や自己評価の内容を全職員で共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の運動会は見学のみでなく、職員が選手として参加し交流を深めている。地域の一員として葬祭にも参列している。	毎月の地域清掃活動に参加している。地域中学生10名を職場体験学習に3日間のスケジュールで受入れている。地域定例の行事、学区運動会、とんど祭り、風船バレー大会、保育園児との交流、同地域4つのグループホームと定期研修会を積極的に行っている。地域の方から定期的に季節のお花を頂き、玄関等に生けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験学習の受け入れ、認知症アドバイザーのいる施設として活動している。近所の方との日頃の会話の中にも認知症に関する問いがあり、答えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多職種の方の参加を頂き、双方向の会議となるようにしている。同一地域の他のグループホームの管理者が相互に参加し、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催。事業所の運営状況、行事予定、情報公表・外部評価の結果・目標達成計画等併せて報告し、意見交換を行い助言やアイデア等を得ている。出席者から地域行政の情報、行事の説明や参加要請もあり、会議での意見提案を検討し、サービスの質の確保、向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加、指定更新の時期でもあり、いつも以上に市担当者にお問い合わせの事が多く連携が図られた。	管理者は認知症アドバイザーの資格等を保有しており、行政からの要請を受けて手作り資料を持参し、認知症サポーター養成講座の講師として関わっている。運営推進会議に区担当者に出席してもらい、ホームの実情、サービスの取り組みを理解頂き、課題のある場合は相談をしている。生活課とも密な連絡を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間研修の中の1つとし勉強会を開催し、共有認識を図り、言葉による抑圧等気付かないうちに行っていないか、正しく理解できるよう取り組んでいる。	全職員は身体拘束がもたらす弊害を正しく理解し、利用者の尊厳を大切に、常に見守りと気配りをしながら支援している。玄関は施錠はしないが、時に無断外出もあり、利用者の安全を考慮し、防犯センサーを必要な時のみ使用している。地域包括支援センターの勧めで、徘徊ネットワーク加入を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	グループホーム内外の研修への参加により防止に取り組んでいる。皮下出血等見られる時は、原因を考え虐待行為はないか確認し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	「かけはし」利用について管理者が対応しているため、職員の理解は薄い経過をグループホーム内研修で説明し、個人記録を作成し周知出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をかけ丁寧に説明している。重度化した場合・医療連携の体制については特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の開催において利用者・家族が意見・苦情等なんでも言えるよう雰囲気づくりには留意し参加者全員が発言できるようにしている。出された意見は運営に反映されている。	管理者、職員は家族の意見、苦情は事業所にとってサービスの質改善の基であり、前向きに受け止め、全体会議で議論の上サービスに反映している。家族の訪問の機会や電話での報告時には、意見や要望など出来る限り引き出す取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議では要望・意見等言いにくい事もあり、話し易い環境を作り要望・意見を聞くようにしている。年1回1泊で交流会を行い言いにくい事も話せる雰囲気づくりをし把握している。</p>	<p>管理者は職員と共に働き易い体制づくりに取り組み、常に現場職員一人ひとりに気配りし、運営に関しての意見や要望に耳を傾けている。年1回行われる、関連企業との合同の1泊交流会は職員同士の親睦と運営やサービス面等、情報交換の場となり、普段は耳にしない事も把握でき運営の反映に繋げている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>実践者研修・管理者研修・介護福祉士・介護支援専門員等の資格習得の支援を行い、資格取得後は、職場内で活かせるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修には、一人でも多く参加できるようにしている。新人職員に対しては一緒に介護を行う中で介護技術だけではなく関り方についても指導している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域の同業者との連絡会・事業者交流会等の集まりに参加し交流を通じて、一緒に学んだり、親睦を深めている。運営推進会議には相互参加している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面談では必ず本人に会い、希望されている事・現在の身体の状態を把握するよう努めている。体験利用により不安が解消できるようにもしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族の苦勞・利用開始までの経緯を十分に聞くようになっている。利用開始が不安な場合は体験利用も勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	困っている事・不安な事・何を求めているのか、本人・家族の状況を把握し、出来る事はすぐに実行に移している。場合によっては、他の事業所・併設の小規模多機能居宅介護事業所へのサービスにつなげるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、季節の行事等行うと教えてもらう場面がある。得意な事に対しては十分に力を発揮出来るようセッティングしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの様子・気づきは家族と共有できるように努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援するよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域で暮らす馴染みの知人・習い事をしてきた時の友人等が、自由に訪問されている。継続的な交流ができるよう働きかけている。	家族を始め、馴染みの友人、知人の訪問時は全職員で歓迎し、居室や居間で、心ゆくまで交流頂く支援をしている。利用者の中には花の教室、書道の先生もおられ、当時の生徒さん達が訪問時は双方にとり至福の時となっており、関係を継続する支援をしている。毎週家族対応で絵画教室に通うご利用者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ティータイム・食事の時間は職員も一緒に輪に入り、利用者同士の関係がうまくいくように調整役になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了し他へ移られる際には、これまでの生活環境・本人の状況等情報提供しきめ細かい連携を心掛けている。行事への誘いかけも行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情・反応等で思い意向を確認している。意思疎通が困難な方には本人の視点に立ち取り組んでいる。	全職員は常に利用者の心に寄り添い、言葉、表情、行動の中からも思いや希望を汲み取り、カンファレンスにおいて家族の意向、要望も含め、その人らしく暮らせるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前の面談時より生活歴を伺うようにしている。普段の会話の中からも情報収集できるよう心がけている。本人だけでなく家族・親戚の方にも教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタル・排泄チェック表を活用し、一人ひとりの生活リズムを理解し、できない事よりできる事に注目し、朝・夕の申し送り・連絡ノートにより職員が全員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃のかかわりの中で本人・家族の思いや意見を聞き、利用者ごとにケアプラン担当者を決め計画作成担当者と共にケアプランを作成している。</p>	<p>センター方式のアセスメントシート、職員で積み重ねてきた情報シート等を活用し、利用者の担当職員の情報、モニタリング結果、家族の意見等を検討し、本人の現状に即したケアプランを作成し、サービス提供の中でモニタリングを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人ファイルを作り、食事・排泄・入浴・日々の暮らしぶりを記録し、職員間での情報を共有している。個人記録・ケアプラン実施表をもとに、介護計画を評価し見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>予定外の外出や面会・通院・家族との昼食会等本人や家族の日々変化する状況や要望に応じられるよう、臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の保育園・小学校・中学校等と定期的な交流を行っている。運営推進会議に地域包括支援センターの職員・地元自治会の役員等が参加され関係が強化され、情報交換・協力関係が築かれている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族の希望により決定している。受診時の様子・かかりつけ医とのやり取りは、医療連携ノートにより家族へ伝え職員間でも情報共有している。</p>	<p>協力医療機関と、訪問看護を中心に医療支援を行っている。本人や家族の希望されるかかりつけ医による医療受診支援も行われている。医療受診時の記録は医療連携カードを作成し家族に送付され、職員間での共有もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。かかりつけ医に尋ねにくい場合は、訪問看護師より、尋ねてもらおう場合もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援の方法等を記入した介護要約を用い、情報提供を行い、電話・面会等で状態の把握をし、早期退院に努めている。家族とも回復状況の情報交換を行い、退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期対応指針により、説明を行っている。現在看取りまでの希望者はいないが、本人・家族の意向を踏まえ、医師・職員・訪問看護師が連携を取り、対応して行きたいと考えている。	入居時に、重度化した場合や終末期の在り方について明記された指針に基づき、事業所のできる事、できない事の説明と話し合いを持ち、本人と家族の意向を踏まえ支援の方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内外での研修に参加し、実際の緊急時に生かせる技術を習得出来るように努めている。緊急時マニュアルを作成しており、全職員に周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、消防署員立ち会いの基に実際に外階段を使い、状況に即した避難訓練を行っている。災害時には、関連事業所・自治会にも協力を要請している。	災害時対応マニュアルを整備し、緊急連絡網、避難経路、消火器設置場所など全職員が把握共有している。年2回消防署員立会での昼夜の災害を想定した、通報・避難誘導・初期消火の訓練を同一建物内小規模多機能型施設、隣接の高齢者専用賃貸住宅と合同で行い、協力体制を築き、地域に協力要請もされている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心掛けている。本人が出来る事を尊重し自己決定しやすい言葉を掛けるように努めている。	その人らしく安心と充実した日々を過ごして頂くために、本人の立場に立った言葉かけや対応の支援をしている。お花の先生、書道の先生、畑仕事、植木の水やり、洗濯物たたみ等、利用者の出来る力に応じた継続支援を行っている。入浴、排泄の介助は特にプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者一人ひとりに合わせて声を掛けている。意思表示が困難な方には、表情・仕草・声のトーンを読み取り、本人が決める場面が多くなるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースで生活出来る様に心掛けている。その日のコンディション・様子をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望により美容室へ出掛けたり、美容師さんに来苑してもらい、希望に合わせたカット、毛染め、パーマをしてもらえる様連携を取っている。行事等には化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	天気の良い日には、ウッドデッキで食事やお茶を楽しんでいる。台所を囲むように居室が配置してあり、調理の音・匂い等食べる以外でも楽しんでもらえている。	旬の食材を取入れ食べやすく見た目も美しい、栄養バランスのとれた食事を提供し、利用者の楽しみとなっている。また、利用者と職員と一緒に下膳やテーブル拭き等をしている。食事介助は一口の量、嚥下確認など笑顔で声かけをされている。食後は全員で感謝の言葉を唱和されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	一人ひとりの体調と一日の摂取状況を把握している。食べにくい人には，かかりつけ医より補助栄養を出してもらっているが，これだけに頼らず食が進むよう工夫している。トロミ・ソフト食・ミキサー食等でも支援している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	毎食後口腔ケア・歯磨きを実施している。本人の力に応じ，職員が仕上げ・磨きの確認を行っている。義歯は一晚洗浄剤に浸け，洗浄している。訪問歯科の定期的受診も行っており，医師・衛生師よりの指導・助言を受け，食べ続ける事が出来るように支援している。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	トイレでの排泄を基本とし，排泄チェック表を用いて声掛け・誘導を行い，トイレで気持ち良い排泄が出来るよう支援している。本人の自尊心を傷つけないよう言葉掛けにも配慮している。	一人ひとりの排泄チェック表をつけ，パターンや状態を把握し，自尊心に配慮した声掛けトイレ誘導を行っている，又利用者の動きから排泄を察知しトイレ誘導を行う，ナースコールを鳴らされる前に訪室する等，早めの排泄支援に取り組まれている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	排泄パターンを記録し，便秘の方には起床時の水分・食後のトイレ誘導・腹部マッサージ・体操等実施し，スムーズな排便が出来るよう取り組んでいる。水分補給の重要性について常に意識するようになっている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	本人の希望に合わせ回数・時間・シャワー浴等行っている。入浴を拒む人に対しては，言葉掛けや同性の職員の介助等を行い，楽しんで入浴出来るように支援している。季節に応じて，ゆず湯やしょうぶ湯や苑庭での足湯等を楽しんでいる。	午後に入浴時間の中で本人の希望に添って行っている。入浴を嫌う利用者にはタイミングをみての声掛け，同性職員の促し働きかけ等による支援が行われている。入浴時には身体チェックがなされ，体調不良で入浴できない時は，足浴，手浴，清拭を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の一人ひとりの疲れ具合を考えて、個別に休息出来るよう支援している。眠れない方には、原因を見極めその人本来のリズムが取り戻せるよう、1日の生活リズムを整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬の内容（目的・用法・用量・副作用）が分かるように内服管理表を用い、確実に内服出来るよう支援している。処方箋薬局の薬剤師・医療機関との連携も図れ、アドバイス・指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力が発揮してもらえる場面を作っている。お茶・生花・習字・野菜作り等役割を持って頂き、継続出来るよう感謝の言葉を忘れずに伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の協力を得て、美術館・温泉・近隣スーパーへの買い物等、外出されている。天気の良い日は体調を考慮しながら、ウッドデッキで過ごしている。	ウッドデッキは自然環境とマッチし、解放感と心に安らぎを与える集いの場となっている。季節で外出機会に違いはあるが、デッキでの食事、お茶の時間、行事等に多彩に利用されている。普段行けない場所等は家族協力を得て外出支援を行っているが、頻度も少なく限られており、ホームの外出支援も含め改善を検討されている。	自然環境に恵まれている半面、公共的な公園がなく、現時点では日常的な散歩コースは限られ、近所の大型スーパーへの買物、隣接地の畑、地域行事参加など限られている。利用者一人ひとりの希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながらの外出支援を望みます。また、日常の外出支援の現状を情報誌等で家族へ伝えることを望みます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て、自宅までタクシーを利用し支払いも自ら行い、社会性の維持につなげている。本人の安心や満足に向けて、少額の金銭を持って頂けるよう家族と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状・暑中見舞を出す為の支援（代筆・ハガキや切手の用意）を行い、出せるようにしている。家族・友人からの電話も話しやすい環境を整えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節に応じた飾りつけと一緒に製作して飾っている。毎年干支の置物を入居者と作っている。今年はおうさぎを折り紙で作って飾った。毎年飾る計画を立てている。	吹抜けの広い玄関に、利用者と共同制作の紙製お神輿、廊下にお月見を再現した作品、居間で寛げる畳コーナーには鶴を折り貼り合わせ作製された、干支のウサギなど出来る力を活かした作品が展示されている。共用空間は、明るく室温・湿度や換気も良好で、掃除も行き届き清潔で居心地がよく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ホールに畳を置き、絵画・花・幟・旗等の装飾で居心地の良い空間を作っている。畳コーナーや窓側の席で気の合った人同士楽しくおしゃべり出来るよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていたダンス・写真・思い出の品などを持ち込まれている。家族よりプレゼントされた品物もあり、本人が落ち着いて過ごせるよう取り組んでいる。	居室は清潔で、本人の思い・要望、家族等の希望に添って個性的になっている。本人が居心地よく安心して過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室入口には壁掛を飾り、目印として居室を迷わないように工夫している。新たな迷い・混乱が生じた時には、その都度必要な目印を付けたり物の配置を考えている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	楽々苑の理念である「自然・安心・快適」のもと、毎朝の朝礼で管理職と職員で唱和して職員間で共有すると共に、理念に対しての個人目標を設定して、毎月個人評価も行い、理念に添ったサービスを提供出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所の行事に地域の人やボランティアを招待したり、地域の行事に利用者に参加したりと、相互に行き来して地域との交流を深め、事業所全体が地域の一員だという意識を持っている。また、毎月苑外清掃も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学校の職場体験学習を事業所で受け入れ、認知症の特性や対応方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており、利用者・家族・関連企業・地域住民・同サービス事業所・知見を有する者等、幅広く参加を呼びかけており、提供しているサービスの報告を行い、相互に意見交換や情報共有にて、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターや介護保険課に取り組み報告を行い、意見交換を行い、地域の講習会等にも参加して協力関係の構築している。また、介護保険課とは電話や訪問して情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	マニュアルを整備しており、年に1回は身体拘束について施設内研修を行っている。定期的及び新入職員研修等にてマニュアルを読むようにしている。研修では、身体拘束を行う上での弊害を理解して日々ケアを行うように徹底している。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	マニュアルを整備しており、年に1回は高齢者虐待について施設内研修を行っている。施設内での虐待については、日頃から職員のストレス軽減や利用者の状態に注意して、報告・連絡・相談を徹底しており、家族のネグレクト等にも気を配っている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	マニュアルを整備しており、年に1回は権利擁護や人権保護についての施設内研修を行っている。パンフレット等も施設の玄関に設置して、ご家族等の相談にも随時応じており、必要時はかけはし等を活用し、連携を図っている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	見学から契約にいたる間、面接や電話連絡等も行い、十分な説明と質疑応答を行い、相互に納得の上で契約をしている。また、入居時には基本的に家族に来苑頂き、再度話し合いの時間を取っている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	運営推進会議には、利用者・家族に参加して頂き、意見等を伺っている。面会時には家族より意見や思いを聞き、運営に反映させている。また、施設入口には苦情BOXも設置している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回は全体会議を行っており、職員の意見を聞く機会を設けており、日頃より職員から管理者、管理者から代表者へ意見等の連絡相談体制を整えており、運営に反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	入職時に職員の思いや希望を聴取しており、入職後も資格取得や希望に応じてのグループ内異動等を積極的に働きかけて、意欲向上を図っている。また、年に1回は福利厚生として職員交流も兼ねた一泊旅行も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回は施設内研修を実施している。施設外研修においても施設内で案内を回覧して積極的に研修参加出来るようにシフト調整をしたりして働きかけている。また、入職後ではOJTを活用してトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一地域の同業者と連絡会を設立しており、情報交換・意見交換や合同勉強会、合同レクリエーション等を行い、相互協力のもと、サービスの向上を図っている。また、関連会社の管理者同志で会議を月に1回行っており、相互の連携や協力を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族を含め本人とも面談を行い、ニーズの把握を行い、一人ひとりが不安・困り事が言えるような環境をつくり、傾聴・共感出来る関係作りをしている。また、入居前に利用されていたサービス機関の担当者からも情報を収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用申込時に、面談にて直接家族より状況を聞いており、利用開始時にも再度意向を伺い、不安や求めている事に応じられるように傾聴・共感している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にニーズ把握をしており、当苑でのサービス説明の他に必要時は他のサービスに関しての説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の得意な事や出来る事を考慮し、役割を持って生活して頂き、人生の先輩として様々な事を聞き、暮らしを共にする生活者として、お互いに支え合い、喜怒哀楽を共有する環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に当苑での生活状況を説明し、家族との繋がりを維持しながら、利用者や家族の思いを共有するように努めている。また、月に1回は利用者の様子を手紙や広報誌等で伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人の面会等については、特に時間制限を設けてはおらず、遠方の場合には電話等を使用して関係を維持出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の生活・趣味等を考慮して、利用者同士が助け合って生活出来るように支援している。また、孤立しそうな場合は職員が間に入り支援しており、配席についても相性等を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も利用中に築いた関係を大切にしており、電話や面会する事で関係が途切れないように支援している。また、新しい住まい先には本人の情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や面会時に本人の思いや希望を聞き、職員間で共有して、出来るだけ希望に添えるように支援している。また、困難な場合でも職員が各利用者の立場に立って、思いや意向の把握し、家族やインフォーマルなサービスも含めて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や面会時にこれまでの生活歴等を家族に聞いたり、日常会話の中からも把握しており、かかりつけ医からも情報収集をして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌・行動記録・申し送り等にて一人ひとりの状況把握に努めており、連絡ノートは出勤者が必ず目を通し情報の共有をしている。また、日々のモニタリングも記録して、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・かかりつけ医・訪問看護職員・職員がそれぞれの立場で意見を出し合い、協議して作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施表と個別の行動記録に毎日記入し、連絡ノートを活用しながら、情報の共有と共に必要時にはプランの変更も行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>近隣同事業所同士の連携や情報交換にて、状況に応じて対応しており、必要時には行政や地域包括支援センター、民間サービスも視野に入れて活用している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>警察や消防には定期的に訪問して協力を依頼しており、地域の保育園・小学校・中学校とも交流を深めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族の希望により決定しており、訪問看護職員とも連携して良好な関係を構築している。また、医療連携ノートを作成し、月に1回家族に報告している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週訪問看護を受入っており、利用者の健康観察・介護職員の不安や疑問点等も相談している。24時間オンコール体制をとっており、必要時には連絡相談を行い、適切な対応が取れるようにしている。また、訪問看護の様子を月に1回家族に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関といつも、意見や情報交換をしており、入院中も家族や病院関係者と連絡を取り合って、早期退院に向けて話し合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	マニュアルを整備しており、重度化・看取り指針を作成し、家族に通知している。また、本人・家族の意向を尊重して多様なケースに対応出来るように整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを整備しており、年に1回は緊急時対応について施設内研修を行っている。また、救急救命法やAEDの使い方、吸引器の使い方等の講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを整備しており、定期的に訓練を行い、運営推進会議等で地域に報告をしていると共に協力を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを整備しており、年に1回は個人情報保護やプライバシーについて施設内研修を行っている。人格やプライバシーに配慮して、施錠等も行わないケアをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分の思い・希望を気兼ねなく表せるように支援している。また、利用者本意を念頭において、自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各利用者の特性やペースに合わせて支援しており、その日の体調や希望を優先して支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節や場面に合わせて利用者の衣類を変えている。また、本人の希望を取り入れて美容室でのカットやパーマを依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者同士の相性を勘案して、席の配置を決めており、必ず職員も各テーブルに入って、食事の匂い・味・色等の話しをしながら楽しんで食事が出来るよう支援している。また、食前のテーブル拭きや食後の片付け等出来る範囲で利用者と職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量と飲水量を把握しており、利用者に合わせて、食事形態・嗜好物・食事道具を提供している。また、本人や家族からの情報収集も適宜行っており、家族に協力を依頼する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者の状態に応じて、職員が仕上げやブラッシング等口腔ケアの支援を行っており、夜間は義歯を外して職員が洗浄している。また、訪問歯科と協力して定期的な診察と職員の疑問等を報告して連携をとっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者ごとの排泄間隔やパターンを把握するようにしており、それに応じて声かけや誘導・介助を行っている。トイレまでの歩行やトイレ動作も生活リハビリと考え、トイレでの排泄を促すように支援している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者ごとの排便状況を把握しており、体操時の腹部運動やマッサージ、飲水量の増加を促したりして便秘の予防に努めている。また、便秘時の利用者の身体的・精神的弊害を理解して、必要時は医師の指示のもと下剤や座薬も使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	時間・回数・シャワー浴等、利用者の希望や状況に合わせて支援している。入浴時は職員と一対一となるのでスキンシップをとりながら様々な話をして、利用者の興味や意欲を引き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者ごとの生活習慣・就寝時間・睡眠パターンを把握しており、湿度や室温にも気を配って安眠出来るように支援している。また、日中にしっかりと心と体を動かして夜間の安眠を促し、昼間も状況に合わせて休息出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者ごとの服薬管理表を各自が確認しており、内服薬の変更等があった場合には、連絡ノートを活用して情報の共有をしている。また、内服薬は個別に管理しており、服薬についての施設内・施設外研修を行っている。内服介助に際しては、声出し確認を行って内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者ごとの生活歴や特性に合わせて役割作りをしており、体操時やレクリエーション時でも利用者に合わせて支援している。また、行事等の準備に関しても、特技に応じて協力して頂くようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に苑外の散歩を企画しており、本人の希望を踏まえ、地域の行事に参加したり家族との外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の能力に応じて管理を行い、必要時には家族と相談して本人使用の支援をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道やレクリエーションで字を書く事を日常的にしており、利用者の希望に応じて手紙の代筆や電話の支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間は開放的で季節の花や手作りの作品を飾り、行事の写真等を掲示している。湿度・室温・換気にも気を配り、テーブルは丸テーブルを使用して、心地よく過ごして頂ける様に支援している。また、共用空間で利用者の感情が不安定になった場合は、居室等にて個別に対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナーや居室では気の合った利用者同士が過ごされたり、状況によっては、スタッフルームを活用して個別レクリエーションを行ったりして頂ける様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に本人・家族と相談して馴染みの物や好みの物を持ってきて頂いたり、居室に家族や職員からのプレゼント等も飾っている。また、毎日居室の清掃や週に1回はシーツ交換を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険物は手の届く所へは置かず、トイレ等は目の届く位置に分かりやすく表示している。入居時は繰り返し場所等を説明して把握出来るように支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 楽々苑

作成日 平成23年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援の現状を家族等に伝える事が不十分である。	当苑の外出支援状況を個別に家族に伝える事が出来る。	3ヶ月に1回は従来の広報誌以外に利用者毎の行事(施設内外)の写真を貼付したものを作成し、現状を伝えて行く。	平成23年11月より行い、毎年1月・4月・7月・10月に発行する。
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。